



幸せな時間 布施知子

空気を含んでふわりとしている。ぱりぱりしている。ごわごわしている。しんなりしている。腰がある。張りがあある。表面がすべすべ、あるいはざらざらしている。繊維が硬い、あるいは柔らかい。折った谷線を山線に変えにくい。付けた折り線がすぐに戻る。等々感じながら、日々紙を折っている。

私は折り紙作家。折り方の本を書いたり、展覧会に参加したりしている。

日本はコンビニでも「折り紙用紙」を売っている店舗がある、紙と折り紙の国だ。折り紙は正方形の折り紙用紙であるものと思われている方が多いだろう。確かに基本はそこにある。しかし世界中に多様な紙があり、選んで、触って、折る

ことは喜びだ。綺麗な千代紙は持っているだけで嬉しいが、思い切って折ってみる。手染めのマール用紙もしかり。『折り』と紙が合っていれば、指の正月だ。

折り紙は柄や色はもとより、紙質が重要で、『折り』は紙を選び、紙で『折り』が決る。自分で漉いたら、なんて気楽に言う人もいるがそこまではとてもできない。店に並んでいる紙を見たり触ったりして、あれこれ思いをめぐらす。これが夢膨らむ楽しい時間だ。

折り紙に出会ったのは入院中の病院で七才のときだった。同じく入院患者の成人男性が薬包紙で「百合」を折ってプレゼントしてくれた。一枚の紙が思いもよらぬ形に変化した驚きと、薬包紙の透け感と折り線の美しさに目を奪われて魔法にかかり、そのまま今日に至っている。五十年前、葉は五角に折り畳まれた正方形の薬包紙に包まれていた。

動物や花を折ることから始まった私の折り紙は、複数の紙を折って立体や箱を組み立てる「ユニット折り紙」に出会って三十年近く熱中時代を送り、次に細かい三角形や長方形を使った「螺旋」へと移り、十年ほど前からは長いロール紙を使って大規模展示をするインスタレー

ションに力を注いでいる。これらと並行して「平折り」と呼ばれる一見織物のように見える折り紙も続けている。

インスタレーションで大作を折るとき、1×15メートル以上の長い紙と格闘しながら、皺がよらないように、切れないように、「頼みます。紙」と願う。少々無理にも耐えてくれる、ようやく見つけた障子用の紙を愛用していたが、それが廃番になると聞いてがっかりしている。代わりは見つかるだろうか。

「平折り」は主に土佐のむら染め和紙を使っている。折り鶴は一段階ずつ折っていくが、平折りは設計した形に沿って目打ちなどで基本線を紙一面に引いてから始める。紙を広げてくまなく見渡し、これから時間をかけて、この美しい紙に隅々まで触り折っていくのだと、引き締まった気持ちになる。『折り』と紙の呼吸が合ってくると、紙は指と折りに吸い付くように寄り添い、幸せな時間が訪れる。



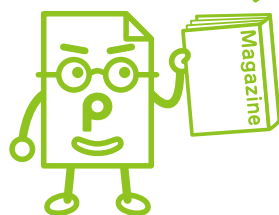
ふせ・ともこ●折り紙作家。1951年、新潟県生まれ。パーツを組み合わせて作る「ユニット折り」の第一人者。仏ルーブル宮殿内で開催のParis Origami招待作家など、国内外で活躍する。著書は外国語版を含めて100冊以上出版。主な著書に『くす玉おりがみ花切り』(誠文堂新光社)など。

「越後妻有 大地の芸術祭 2022(開催中～11月13日)」展示作品(うぶすなの白)と

ペーパー君のつ・ぶ・や・き 活動

雑誌なら、雑誌だけひとまとめ。

雑誌・新聞・段ボールなど、回収された古紙は、それぞれ違う紙へとリサイクルされます。だから同じ種類の古紙でまとめた方がリサイクルしやすいし、古紙の品質だって良くなるんです。それにその方が持ち運びだってラク。まとめるだけで、いろんなメリットが生まれるんです。



主な古紙の一例



雑誌



新聞



段ボール

その他にも

家庭から出る左記以外の紙(雑がみ)、オフィスペーパー、紙パックなどがあります。

※分別方法は、地域によって異なります。詳しくは自治体または回収者にご確認ください。

紙のことをもっと伝えたい。詳しくは、<http://kamitsubu.com/>「ペーパー君のつ・ぶ・や・き」WEBサイトをご覧ください。

今回は6月30日号です。

提供：日本製紙連合会 <https://www.jpa.gr.jp>

Photo : Shiro Miyake